

2022年9月15日

立教大学国際学術研究交流制度
2022年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	ビジネスデザイン研究科・教授
	氏名	山中 伸彦
受入学部・研究科・研究所		ビジネスデザイン研究科
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor in Marketing and International Business, TBS Education 所属機関所在国：フランス
	氏名	Mariana Bassi Suter
招へい期間		2022年8月25日～2022年9月10日（17日間）
研究経費		585,340円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。
講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例）〇〇について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2022年8月25日	来日
2022年8月26日 10:30 - 15:00	・ 招聘期間における活動およびスケジュールについての確認、学内施設の案内、研究セミナーおよび研究科教員を交えた活動についてのディスカッション
2022年9月2日 10:30 - 16:00	・ 研究科事務室を訪問、事務室課長と教育連携について意見交換 ・ 国際センターを訪問、国際センター職員と交流について意見交換 ・ 研究セミナーの内容、進行についてディスカッション ・ 大学院教育、博士論文指導について意見交換
2022年9月3日 14:00 - 15:00	・ 博士課程大学院生に対する助言、研究に関するディスカッション

2022年9月3日 15:00 - 17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ Research Seminar, “How to use Country of Origin Image as a firm resource in international markets” 会場：1204 教室 参加者：26名（研究科教員、他大学教員、大学院生）
2022年9月7日 15:00 - 17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他大学教員を交えた研究についてのディスカッション ・ 修士論文指導に関するワークショップ型指導方法についてのディスカッション
2022年9月7日 17:00 - 19:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ Research Seminar, “Coming up and framing your research idea” 会場：1204 教室 参加者：8名（研究科教員、他大学教員、大学院生）
2022年9月9日 10:00 - 14:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究活動の連携、研究活動の国際化に向けた情報交換、ディスカッション
2022年9月10日	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

<p>この度の招聘においては、二度にわたって招聘研究員による研究セミナーが開催された。</p> <p>9月3日開催の研究セミナーでは、招聘研究員のこれまでの研究ならびに進行中の研究プロジェクトについて、研究課題の企業経営上、特にその戦略的意義、研究課題の理論的背景ならびに理論的概念のレクチャー、さらに研究仮説の構築、分析結果の考察といった内容について報告がなされ、出席の社会人大学院生、本学教員から活発に質問が提起され、大変有意義なディスカッションがなされた。マーケティングやブランドマネジメントといった領域はもとより本研究科の社会人大学院生にとって最も関心の高い領域の一つであるが、招聘研究員の研究テーマである Country of Origin Image という概念については初めて触れた院生も少なくなく、新たな問題関心を喚起することになったという点でも研究のみならず教育的な意義の高いセミナーとなった。</p> <p>また、9月7日のセミナーでは、自己の社会生活や職業生活における興味や関心からどのように研究課題を見だし、Research Question を提起するか、さらにそうした Research Question に対し、先行研究のレビュー、仮説構築、検証を通じて研究論文をいかに完成させるかという一連の方法論ならびに研究サイクルの遂行についてワークショップ型のレクチャーが行われた。本セミナーでは、招聘研究員自身の経験も取り入れつつ、参加者は自己の生活や関心を振り返りながらワークシートを用いて Research Question を案出するという実践的なセミナーとなった。トピックが研究者向けであったことから、参加者の多くは本学教員ならびに博士課程の大学院生が中心となり、残念ながら参加者は少数にとどまったが、それだけに関心の高さは著しく招聘研究員と参加者の間で自由に活発な議論が交わされ、相互の情報交換という点でも有意義であった。</p> <p>こうした研究セミナーに加えて、数回にわたって社会人大学院のあり方やそこでの教育プロ</p>

グラム、今後の共同研究プロジェクトや教育連携についての意見交換も行われた。招聘研究員は、フランス、トゥールーズを本拠地としてヨーロッパに数箇所のキャンパスを擁するビジネススクールに勤務しており、そこでのプログラムや学生の実態について貴重な情報が得られた。招聘研究員にとっても、ヨーロッパ以外の連携先という点で本学との連携は魅力的であると考えており、国際センターや研究科事務室職員との接点を設けることができたことは、今後の双方の関係形成の契機となると期待される。

参考

9月3日のセミナー風景



9月7日のセミナー風景

